

仮題「公共政策大学院間セッション」について

文責：京都大学公共政策大学院 NPO 研究会

徳永 光佑

仮題「公共政策大学院間セッション」¹

—全国にある公共政策大学院または公共政策にかかわる科目を専門に扱う研究科同士が、各自の考える政策課題についての考察・研究成果を報告し、それについて議論する場を提供したいと考えています。

◎自己紹介

- ・私たちは京都大学公共政策大学院にて活動している NPO 研究会と申します。2013 年度より有志が集うことで活動をはじめました。現在、10 名が所属しております。活動開始当初は、将来的な行政ないし公共政策形成のあり方として、非政府・非営利主体の重要性の高まりに着目して研究を開始しました。「NPO」を団体名に載っているのはそのような経緯ゆえであります。現在では、公共政策を担う主体をより広い意味で考えており、企業の CSR 活動なども視野に入れた形で将来的な行政ないし公共政策形成について研究をしております。
 - ・活動実績としましては、2013 年 12 月、京都大学公共政策大学院科目「NPO の理念と実際」（吉田忠彦教授担当）と連携する形で、NPO の実務家、大学教授を招いたフォーラムを開催しました。また、滋賀県長浜市で活動する NPO への経営改善案の提言も行いました。
- 今年度は、滋賀県中小企業家同友会と連携し中小企業と地域福祉の関係について研究をしていく計画でおります。

¹ タイトルは仮題です。今後、他大学の学生と企画の方向性について議論していく中で、より適当なタイトルを決めたいと考えています。

①企画に至った経緯

- ・私たち研究会では、前年度にフォーラムを開いた際、学生と実務家といった具合に、学生が学外の違う観点をもった人と議論することで得られるものは大きいと実感しました。また他方では、同じ大学院内での議論だけでは、自分たちの考え方を見直す機会が乏しくなってくることにに対して危機感を抱いておりました。そこで、仮題「公共政策大学院間セッション」を企画するに至りました。
- ・加えて、特定の論点についてグループワークによって分析を進めていくことは行政官にとって必須のスキルであることから、そのような素養を訓練する機会になれば、とも考えています。
- ・最後に、私たちは単に企画を実行するだけではなく、他大学の様々な考えを持っている学生と、このような大きな企画を実現していくこと自体を経験したいと考えています。以下で、形式上そうせざるを得ないため、私たちの考える企画の骨子を提案させていただきますが、それは私たち研究会の想定にすぎません。これから協力していただく有志の方々と議論しながら企画を作り上げたいと考えています。

②企画の目的

一次の3つを私たち研究会は掲げています。

I 発信の機会

: 公共政策について大学院で学んだ知見・身につけたスキルを用いて特定の政策課題を分析し、改善案を提起し、それについて多様な考えを持った同世代の学生と議論する機会を設けること。

II 知見の共有

: 公共政策のカバーする領域は、分野横断的かつ地域的な特殊性も大きい。各大学院で学生が学ぶ知見、身につける分析手法は多岐にわたると考える。各々の観点から作られた報告について真剣に議論することで、それまでなじみのなかった分野や考え方と接することができる。

III 人的ネットワークの構築

：現代の政策課題は、そのほとんどが多様なアクターとの折衝・協調を要求する。人的なネットワークは相手方への信頼を醸成し、アクター間での冷静で建設的な議論を可能にする。その意味で、広くは同じ志を共有する大学院生同士の交流は将来の活動にとって有意義と考える。その機会を提供したい。²

—ただ、私たち研究会はできることならば、他大学の有志といっしょに企画を作り上げたいと考えています。上記の「目的」は私たち研究会が考えるそれにすぎません。今後の他大学有志との議論の中で企画の方向性を修正し、より洗練させていきたいと考えています。

③企画の内容

—内容についても、やはり他大学の学生と議論しながら確定していきたいと考えているのですが、少なくとも私たち研究会では次のような企画を、現段階では考えています。

- ・各大学内で、政策課題を共有する学生同士がグループを作り³、特定の政策課題について分析し、改善案や代替案を提示するペーパーもしくはプレゼンテーションを作成する。
- ・1日、もしくは2日の日程で、各大学院の諸グループが一堂に集まり、研究成果の報告を行い、そののちに分科会ごとに分かれて各報告についてディスカッションを行う。
- ・最後に、議論の結果を分科会ごとに報告し、それについて有識者（例えば、大学院教授や実務家教員）からのコメントをもらう。

—ただ、上記の案はあくまで私たち研究会内部での考えにすぎません。私たち研究会としましては、こ

² また、学生にとってより直近の課題である就職活動・官庁訪問を乗り越えるうえでも幅広いネットワークを形成し、情報を共有することは有意義であるに違いない。

³ 1つであれ、複数であれどちらでも構わないと考えています。

れから他大学の有志と議論しながら内容を固めたいと考えおり、またそれを楽しみたいとも考えています。

④仮題「公共政策大学院間セッション」実施後

- ・もし大学事務や先生方に助力をいただけた場合には、報告書の作成などが必要と考えています⁴。
- ・上記のような企画の「目的」は今年度だけでなく、将来的にも意義あることと考えます。来年度以降も企画を開催できるような手順・ネットワーク・体制を構築することができるとより望ましいと考えます。

⑤今後の進め方

- ・まずは他大学有志の方とコンタクトをとりたい。彼らとの議論の中で、企画の目的や内容を修正し、洗練させ、共有していくことが大事と考えます。
- ・日程などは未定ではありますが、できることなら今冬に開催したいと考えています。場所についても同じく未定ではありますが、できるだけ多くの大学院が参加できる場所に決めたいと考えています。
- ・企画の内容を確定したのちに、各大学事務に報告、そのうえで可能であれば各大学事務に企画を進めるうえでの助力をいただければ、と考えています。

⁴ 各々がしっかりした準備の下、研究成果を持ち寄るのであるから、コメントなども収録した上で論文集などの形にして発行する価値は十分にあると考えます。